HamaMed-Repository
浜松医科大学学術機関リポジトリ
浜松医科大学
Hamamatsu University School of Medicine

浜松医科大学小児科学雑誌の第3巻発刊によせて

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 浜松医科大学小児科学雑誌編集部 公開日: 2023-03-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 宮入, 烈 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/00004276

浜松医科大学小児科学雑誌（ISSN 2436-2433）
2023 年　第 3 巻　第 1 号　2

浜松医科大学小児科学雑誌の第 3 巻発刊によせて

COVID-19 流行から 3 年が経過しましたが, 同疾患に関連する論文は PubMed で検索すると 32 万件を超え, 系統レビューも 6 千件を超えています．インフルエンザ関連の論文が全期間を通して 15 万件ですから，如何に多くの関心や資源が同疾患に注がれてきたか分かります．なお，昨年公表された各雑誌のインパクトファクターは過去と比べ全体的に上昇していますが, 感染症関連雑誌のそれは 3〜5 倍にも上昇したものもあります．これらの論文を通して発信された臨床経験やエビデンスが，COVID-19 対策に貢献し多くの命を救ったことについては疑う余地もありません．しかし，今後は個々の論文の意義が見直されるものと思います．

本誌も例外なく，小児医療の発展に寄与する使命を担っています．私が前任地で先天性カンジダ感染症の患者に遭遇し，ネットで検索していた時に本誌創刊号の症例報告 1 が見つかり，その詳細な内容を参考にさせていただいたことがあります．日本語で記載されたオンラインのフリーアクセス誌という特殊性もあり，他の掲載論文も多くの国内医療者の目に触れる可能性があります．その中では，批判に耐えうる質の高い記載を残すことが重要です．そのような論文を執筆することは，医師にとって自己研鑽の最たる形であり，若い先生方には多くの論文を執筆して成長の糧にしてほしいと思います．

今回も多くの投稿をいただき，総説 1 編，原著論文 1 編，症例報告 4 編を含む 6 編の掲載に至りました．論文の質を保つためには経験のある先生方の献身が必要ですが，査読を担当いただいた先生方，特に編集委員長である飯嶋重雄先生の多大な貢献に感謝申し上げます．

浜松医科大学小児科学講座
宮入　烈